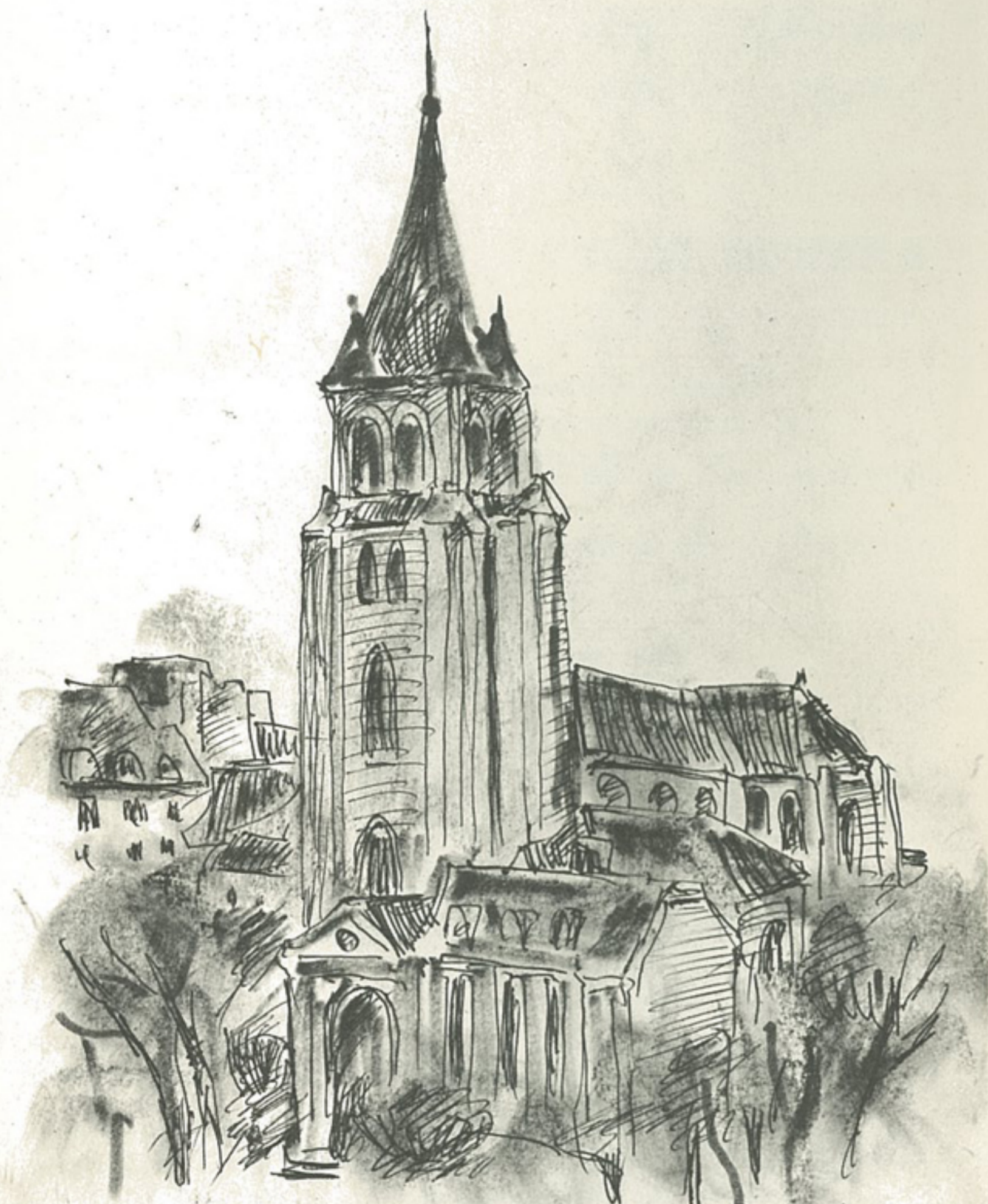


# 緑丘

小樽商科大学同窓会誌  
第3号 / 通巻39号

昭和四十九年十一月十五日印刷  
昭和四十九年十一月二十日発行

緑丘 (第三号)



*Saint-Germain  
des Près Paris*

社団法人 緑丘会

緑丘会東京事務所

東京都中央区銀座七丁目二十六番地トキワビル六階



あなたのすぐお近くにいます—千代田火災の精鋭代理店

## 何かとお役に立ちたいと思います。

あなたの安全を願って  
防災活動に力を入れています。  
危険なクセを各種検査機で発見する、ドライバー能力テスト。火災や事故防止を呼びかける、防災カー全国巡回。漏電検査や電気配線のアドバイスなどもしています。



家庭をもったらホームイン保険  
クルマをもったらハンドル保険



千代田火災海上保険株式会社 本店・東京都中央区京橋1の3 ☎104 Tel(535)4671(大代表)



# 緑丘

小樽商科大学同窓会誌  
第3号/通巻39号



社団法人 緑丘会

0/2  
29  
464

### 《目次》

- ユートピア/西野嘉一郎・2
- テニスと私の人生/陸田 清・16
- 資本理論における
- 寓話と現実主義/荒 憲治郎・18

### 》談論風発《

小樽はよみがえるか?・8

- 先輩・後輩..... 4
- ああ玉の井寮/三浦儀三郎
- 数多くのつながり/大崎 敏夫
- 進藤さんの思い出/皆川 祐一
- 随想.....14
- 母校よ社会科学の殿堂であれ/外山 敏雄
- 実方学長と全学生に訴える/原田 武蔵

緑丘点鬼簿 大谷 敏治・66

- 小林象三先生を偲んで=木曾榮作・68
- 不滅の功績を讃える一故進藤氏一周忌追悼会・69
- 小樽の町を詠む=松山巨山・15
- 心象=海老原青磁・25
- 事務局便り・26
- 学園便り・36
- グループ便り・40
- 支部便り・42
- 同期会通信・50
- 会員異動・70
- 会員への手紙・58 71

緑丘人脈(東京編その2)

大正ルネッサンス/作田和幸・61

編集室から・72 緑丘告知板・13 60

## ■ 賛助企業 (五十音順)

伊藤忠商事株式会社

取締役社長 戸崎 城喜

清水建設株式会社

取締役社長 野地 紀一

株式会社 伊 勢 丹

取締役社長 小菅 丹治

新菱冷熱株式会社

取締役社長 加賀 美勝

株式会社 大 林 組

取締役社長 大林 芳郎

株式会社 地 崎 工 業

取締役社長 地崎 宇三郎

鹿島建設株式会社

取締役社長 渥見 健夫

住友商事株式会社

取締役社長 柴山 幸雄

兼松江商株式会社

取締役社長 町田 業太

大成建設株式会社

取締役社長 南 幸治

熊 谷 組

取締役社長 牧田 甚一

株式会社 竹中工務店

取締役社長 竹中 練一

高村の旧家の主として、郷土の文化の発展に努め、終戦後は、しばらく信州大学や松本医科大学にも出講された。東京外語フランス語の風を伝えるひとりであった。ちなみに現在の緑丘の目黒十門教授は目黒三郎教授の令息である。

藤田栄一教授——蒔田さんは、大正13年、東京外国語学校英語科を首席で卒業されると、当時の主任教授千葉勉教授の勧めで、雪深い緑丘に赴任された。着任するや、その才人振りはフランス語の高橋益実、ドイツ語の杉岡教授とならんで、学園の内外に、なりびびいた。第一に、担当した学課「商業英語」などというこちたきものは、皆さんにはすまないが、教室ではやらない。妙見河畔・電気館通りは、Frequent resorts であつた。昭和2年退官、緑丘助教授から東京府立第一中学校の教諭。そして教室では、文字どおり日本の英才をいぢめつくし、自宅では、英語の受験指導で日本一の名をさせた。そのノウ・ハウを、筆者は、のちにまのあたりみせてもらつて、成程と思つたものである。週の五日は、朝から晩9時まで働

### 小林象三先生を偲んで

木曾 栄 作

去る六月一四日、小林象三先生が京都のご

時代の小樽高商は日本の専門学校の英語教育においてまさしくユニークな存在であり、苦米地英俊先生、浜林生之助先生、中村和之雄先生の存在はまさしく豪華版であり、小林象三先生は更にこれに光彩を加える存在となつたことと確信する。

小林先生は京大在学中は厨川白村教授の門下生として、英文学の研究に専念せられ、テニソンの詩の研究が卒業論文のテーマであつたなど親しくお聞きしたこともあつた。教室では、劇や詩などが教材として多くとりあげられ、テキストの人物の声色など巧みに自ら使われて、これは早大の坪内逍遙博士のシェクスピアの朗読にもたとえられるであろう。他面、先生の映画好きはあまりにも有名で、英語のテストに映画の題名やせりふなどが出されて、あまり映画に親しまなかつた筆者など面喰らつたこともあつた。

昭和五年六月から七年二月まで、文部省在外研究員として渡英されてから、先生の研究の中心は大きく転換し、ロンドン大学のダニエル・ジョウンス教授に親しく師事し、英語音声学として立たれることとなつたのである。この間の事情は省くこととするが、ご帰

いて、土曜日は、なにか本を懐ろにして銀座へでる。ニュース・映画をみて、銀座の一流喰べものやで、豪遊する。

終戦後は、津田スクール・オブ・ビジネスに教え、やがて高田外国語学校の校長、もちろん自分も教える。教えることが好きであつた。のち、俺だつて大学教授の力はあるよと、城西大学の教授、一般学科の外国語主任として、とくに東京外国語大学の英米学科の同窓会や、その会員、卒業生の面倒をみられた。

お酒が好きで、はじめは日本酒、終戦後は、書斎のなげしのうえに、当時は入手難のジョニ・ウォーカーの空き瓶をずらりならべて人をおどかし、本棚には英語の本もさることながら邦枝完二の「高橋お伝」や、村松稍風の「本邦画人伝」などをならべて、よろこぶ享楽人であつた。小樽であこがれた妓さくら子になぞらえてお嬢さんをさくら子と名付け、終戦後、はるばるそのために小樽を訪ねた純情の人であつた。才媛廬子現夫人とのロマンスは知る人ぞ知る。つつしんで諸君子の霊をまつる。(大10卒・近畿大学教授)

自宅で急逝の報を新聞紙上で知り夢かと疑つたのは、筆者のみではなかつたであろう。

八〇才であられた由であるが、先生のご強健ぶりはあまりにも有名であり、いままで病氣にかかられたことは全く耳になかつたからである。ともあれ、亡くなられたことは動かされぬ冷徹な事実であり、今は亡き先生のご冥福をひたすらお祈りするのみである。小林先生は京大英文科卒業後、大正九年四月に小樽高商に着任され、昭和二五年(昭和二十四年小樽商大に昇格)までご在職ののち、京大教養学部に出されたのであつた。筆者は大正一三年四月より昭和二年三月まで学生として先生に親しく教えられる機会に恵まれ、卒業後は昭和五年以来、母校の教官の一員として、先生と共に在職することとなつた。学生

朝後の先生は、英語音声学に一〇〇%のエネルギーを集中されたと言つてもあえて過言ではあるまい。先生のこの部門の研究での学界

へのご貢献と残された足跡は不朽のものとなるであらましよう。(昭2卒・小樽女子短大学長)

### 不滅の功績を讃える 故進藤孝二氏の一周忌追悼会

9月20日午後5時から東京大手町の経団連会館12階ダイアモンドルームで、故進藤孝二氏の一周年追悼会が苦小牧東部開発株式会社と大阪商船三井船舶株式会社の共催で開催された。

当日は海運界をはじめ、政界、財界、教育界などから四百余名の人たちが集まり、緑丘会からは、中田理事長、佐々木周一氏、上村甚四郎氏ほか在京の会員、また、小樽から杉江猛氏、京都から森下弘氏などが出席した。

席上、苦小牧東部開発(株)の太田社長が主催の両社を代表して、「進藤さんは『いぶし銀』のような円熟された経営者であり、今後の苦小牧東部の開発を指導され、号令されるのに最もふさわしい方であつた。」と挨拶、また、植村甲午郎氏は友人の一人として、「高い理想と広い視野をもち、円満な人柄で、かつ胸のうちに熱烈な闘志をもつて、各

界に大きな貢献をされた。」と述べ、さらに児玉忠康氏(日本郵船(株)相談役)は、「本当に楽しい友人であつた。いつも積極的に何か新構想を抱いていて、鋭い感覚と機敏な実行力をもつた決断の人であつた。三井船舶(株)社長時代の欧州同盟加入に至るファイト、海運集約合併の成功などは海運界における進藤さんの不滅の功績である。」と挨拶した。

外遊中の田中総理からは花が届けられ、三木武夫、前尾繁三郎、船田中、中曾根康弘、土光敏夫、永野重雄、広瀬経一、出光計助、藤井丙午、江戸英雄、中山素平(順不同)の各氏など、各界の著名人多数の顔が見られ、「進藤さんはいつも明かるく賑やかなことが好きだったから今夕は賑やかに……」との提唱もあつて、7時すぎまで来会者の歓談が続いた。